

『花を訪ねて： 古代蓮』

## 行田・古代蓮の里散策報告（令和2年7月7日）

昨年、石井さんから「行田・古代蓮の里」の蓮の花が立派であったとお話いただいたが、その時には既に遅かったので、今年に行ってみたいと考えていた。NHKはニュース番組で、6月29日には群馬県富岡の古代蓮の里、7月6日には行田の古代蓮の里の花の状況を紹介していた。

今は梅雨の真っ盛り期なので、晴れの日はとても無理、せいぜい雨のない曇りを期待するしかないが、これがまた難しい。ネットで気象情報を探すのだが、一致していない。止む無く7日（火）にしようとした。後は“運天まかせ”だ。今、九州では熊本県をはじめ、長崎、大分県などで「大雨特別警報」が出ており、「新型コロナウイルス」の蔓延中での“遊山”は、いささか気が引けるが。

ところで、小生はこれまで恥ずかしいことだが、「睡蓮」と「蓮」の違いを認識していなかった。

『睡蓮』： 水面近くに咲く。茎長はせいぜい30cm程度。葉には切れ込みがあり艶がある。

『蓮』： 茎長は1m以上にもなる。葉は円形で艶がないが、水は溜まる。

花の命は4日。

どちらも朝開花して、午後には閉じてしまう。それで『睡蓮』（午後～翌朝まで眠る）です。ここの「行田蓮」は昭和48年に埼玉大学：江森教授らの調査・研究により、1400年～3000年前のものだと判明したそうで、「大賀蓮」とは別の蓮だそうです。

この「古代蓮の里」は入園無料で、市からと駐車場料金だけの収入らしい。駐車場には「新型コロナウイルス」の時期でも多くの車が来ていたが、園内部の人は平日のせいかわるほど多くはない。幸い雨の心配はなくなり、雲の隙間からは青空がのぞき、薄日も差してきた。

入ると正面の「世界の蓮園」には、世界各国から全42種類の蓮の花が区分けされて咲き誇っている。真正面に「大賀蓮」があった。ピンク色の大輪咲きだ。他の種類にはピンク色が多いが白色、黄色などの花もある。「大賀蓮」も「行田蓮」も共に古代蓮で、区別付けにくかった。

園の中の方に入っていくと、広い蓮の池があり、ピンク色の行田蓮が茂っている。花は長い茎の先に咲いているので、横から見る形になる。葉も大きく30～40cmはあるだろう、上に雨水が丸く溜まっている。まだ蕾も多いがもう枯れて如雨露の先のような実ができているものも多い。「蓮の実」は食べられるのですね。池の中には板橋が稲妻状に組まれていて、一方通行で散策するようになっていた。「行田蓮」の池は数か所に分かれ、かなり広い。園内周遊にはたっぷり1時間以上かかるだろう。

約2時間後の10時41分発のバスで行田駅に戻り、そのまま帰宅した。

以上 陽田

